

日々の田高（1年生 生物基礎の授業のひとコマ）

今回は、1年生の生物基礎の授業の一コマです。

授業時間帯に校内を歩いていると、1年生がグループで筆記用具とクリップボード(画板)などを持って歩いてきます。聞くと、生物基礎の観察で、自分で決めた木を見に行くとのこと。一緒に行かせてもらうことにしました。

年間を通して、葉の様子を中心に観察して、ワークシートに記入していくこと、木は、特にこだわりなく決めていることなどの話を聞きながら、裏門側から、坂を降り始めます。

「あれー！葉っぱが一つもない！！」とざわつきます。生徒たちは、葉の観察に来たものの、葉がなく右往左往。すかさず、先生のアドバイスもあり、枝先などに注目します。すると、新芽が見えてきたりしています。生徒たちは、その観察に入りました。

別の生徒は、たまたまツバキを選んでいたので、葉っぱがしっかりあり、スケッチをしていました。「前回観察した時と、何か違うところってあるの？」と聞くと、「色が濃くなった気がする。」とのこと。

色の変化の見立てが正しいのかどうか、正しいのだとすると、なぜそうなのか、そのように深掘りすると、身の回りの様々な事象が楽しくて仕方がなくなるかもしれませんね。

日常のちょっとしたことに、「なんでだろう？」と思って、迫っていくことで、自分の世界が広がります。



裏門側から降りていくと・・・
「葉が一つもない！！」



こちらは、ツバキを選択していた生徒
しっかり観察をします。